



特許第2委員会 (委員数45名、担当：阿部、石島常務理事)

- **日本特許(実案)の「審査・取得後のステージ」を対象に調査研究**
 - 単年度(第1～3小)：審判系（無効・訂正・拒査不服・異議）、侵害訴訟等
 - 中長期(第4, 5小)：特許活用戦略の研究、特許制度提案
- **アウトプット**：知財管理誌に論説として投稿（年4～5本）、東西部会発表
- **外部団体との積極的な関わり**
 - 弁護士会とのコラボ検討（東京弁護士会 & 大阪弁護士会）
 - 特許庁、弁理士会、裁判所（東京地裁・大阪地裁・知財高裁）との意見交換

11月9日(火) 15:00-	東京弁護士会とのコラボ検討成果発表 & 意見交換会
12月未定	日弁連との意見交換会
1月21日(金) 15:00-	大阪弁護士会とのコラボ検討成果発表 & 意見交換会
中止	大阪地裁・東京地裁・知財高裁との意見交換会



研究テーマ

◆ 第1小委員会 – 権利化後の諸問題の研究 –

テーマ	異議申立と無効審判の双方が争われた事件の分析
狙い	異議申立の上手な活かし方、限界等を探る
内容の概略	例えば「異議申立で維持決定がなされたが、無効審判では同じ主張で覆った案件」などから、異議結果を踏まえた主張上の工夫等を調査する

◆ 第2小委員会 – 特許権侵害訴訟の実務に関する研究 –

テーマ	数値限定発明の記載要件に関する検討【東京弁護士会とのコラボ検討】
狙い	数値限定発明が不明確とされる境界線を探る
内容の概略	数値限定発明の技術的範囲が不明確と判断されるのはどのような場合か、記載不備で争われた判例を抽出し、全体傾向や分野毎の傾向を解析。

◆ 第3小委員会 – 審判系（無効、訂正、拒査不服、異議）の実務に関する研究 –

テーマ	早期審査による公開前登録特許の権利の安定性の研究
狙い	早期審査請求時の留意点を知る
内容の概略	早期審査請求された案件において「不服審判を経て登録となった特許」は、そうでない登録特許に比べて、権利が抹消されにくい、というデータを得た。通常審査ではほぼ同一であるところ、なぜ差が生じるのか、原因を究明。 2





研究テーマ

◆ 第4小委員会 – 特許活用戦略の研究 –

テーマ	オープンイノベーション時代に適したLOR制度の提案【昨年度の継続】
狙い	オープンクローズや共創に適した制度を提言
内容の概略	他国LOR利用状況、国内メーカーの活用実態調査を行う

◆ 第5小委員会 – 特許制度の在り方（法改正、知財推進計画の課題等）の研究 –

テーマ	<p>来年度までの2年間で取り組むテーマを以下から選定（並行検討中）</p> <p><u>1. 標準必須特許（SEP）を巡る課題</u> SEPに関して顕在化している課題について検討</p> <p><u>2. クレーム解釈の諸問題</u> 侵害訴訟におけるクレーム解釈の傾向を分析</p> <p><u>3. SDGs、WIPOGreenなどを活用した環境配慮型の特許・特許出願</u> 環境配慮型の特許について実際の活用事例の調査</p> <p><u>4. 無効審判・異議申立ての制度利用率向上</u> 無効審判・異議申立ての利用率が他国と比較して低い理由の調査</p> <p><u>5. 国境をまたいで行われる侵害行為【大阪弁護士会とのコラボ検討】</u> 国境をまたいで行われる侵害行為の有効な排除方法</p>
-----	---